

新たなヘッドクォーター施設に

五島育英会



外観イメージパース

五島育英会は16日、東京都世田谷区の東京都市大学世田谷キャンパスで、新1号館新築工事の起工式を開いた。学生のキ

東京都市大新1号館が起工

設計・監理＝東急設計コン
施工＝東急・大成JV



鎌入れする藤島社長

ンパスライフや就職活動などを総合的に支援する学生支援センターや、総長室などを備える学園のヘッドクォーター施設となる。設計・監理を東急設計コンサルタント、施工を東急建設・大成建設JVが担当する。工期は2期に分け、1期工事が2011年12月、2期工事が13年12月に完成する予定だ。



鎌入れする山口理事長(右)と中村学長

式典では、東急設計コンサルタントの藤島茂取締役社長が鎌(かま)入れ、五島育英会の山口裕啓理事長と東京都市大学の中村英夫学長が鎌(くわ)入れ、



鎌入れする飯塚社長(右)と山田常務

東急建設の飯塚恒生代表取締役社長と大成建設の山田文啓常務建築営業本部長が鋤(すき)入れを行った。
直会(なほらい)で、山口理事長は「学生の満足度を高めるため、学習、生活環境、就職に至るまで総合的に支援する学生

支援センターや総合インフォメーションセンターを配置する。3年にわたる工期のため、学生や近隣の安全に配慮し、無事に竣工を迎えてほしい」とあいさつした。

藤島社長は「吹き抜けから自然光が降りそそぐ構造とした。自然エネルギーを積極的に活用し、サステイナブルな環境配慮型校舎となる」と設計コンセプトを紹介した。

環境配慮のサスティナブル建築



「工期が2期に分かれるため、節目の工期が厳しくなるが、学生の安全を考え、近隣と調整ながら工事を進めていく」

木住野龍也東急・大成建設共同企業体東京都市大学新1号館新築工事所長(東急建設)の話

飯塚社長は「世田谷キャンパスの中核となる意義深いプロジェクトに参画できて感激している。持てる経験と技術を結集し、万全の品質管理のもと学生と近隣の安全を第一に無事故・無災害で工事を進めたい」と決意を表した。
規模はRC一部S造地下1階地上4階建て延べ1万5000平方メートル。学生支援施設のほか、教室、研究室、事務室などを備える。建築面積は3500平方メートル。
建設地は同区玉堤1-28-1の敷地2万3971平方メートル。

無断転載禁止

著作権は建設通信新聞に帰属します

転載承認済